

福島県で漁獲されたアカガレイの生態と資源診断

福島県水産試験場 水産資源部
福島県水産試験場研究報告第13号

1 部門名

水産業－資源管理－アカガレイ
分類コード 19-04-45000000

2 担当者

山田 学

3 要旨

アカガレイは1997年頃から漁獲量が急増し、近年、本県の沖合底びき網漁業で水揚げされるカレイ類の中でババガレイに次いで多い重要魚種となった。今後、アカガレイを持続的に利用するため移動、分布などの生態を明らかにするとともに、漁獲状況から資源の現状を診断した。

- (1) 漁場は水深100～500mで、月別に見ると広い範囲での深浅移動を行っており、産卵回遊と推測された。
- (2) 漁獲物の全長33cm以上は全て雌で、漁獲量に占める雌の割合は約8割であった。また、20cm台は雌と雄双方で構成されていた。漁獲対象年齢は雄が3～8歳、雌が3～13歳で、漁獲対象となるカレイ類では高齢魚を利用していた。これらの結果から卓越年級を示す現象は見られず、続けて漁獲加入があったことが窺えた。
- (3) 漁獲係数は雄が0.448～0.732、雌が0.172～0.289の範囲であった。
- (4) 算出したFを用いると、現在の漁獲開始年齢における漁獲努力量は、雌雄とも加入量当たり漁獲量(YPR)をほぼ最大にする値であった。さらに、漁獲量を上げるには漁獲努力量及び漁獲開始年齢をもとに上げなければならないことが示された。
- (5) YPRと同じようにFを用いると、漁獲が行われていない時の産卵親魚量を100%とした場合の20～35%の産卵親魚量が確保されていることが示された。一般に理想とするSPRの割合は30%以上と言われており、今回の結果は適切な状態から要注意の範囲であった。

4 その他の資料等

- (1) 北川大二ほか(2004)東北海域におけるアカガレイの分布と成長、水産海洋研究、68-3
- (2) 鳥取県水産試験場(1997)アカガレイの生態と資源に関する研究報告書